

# ACCU news

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

## 特集 Voice of Youth Empowerment 2021

～地球の未来は、キミが変える～……2

ユネスコ加盟70周年  
持続可能な未来の構築へつながる  
「Empathy」……7

地域に根差した持続可能な開発のための教育  
(ESD) アジア太平洋交流プログラム……8

アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム  
「BRIDGE Across Asia Conference」……9

タイ政府日本教職員  
招へいプログラム(タイ派遣)……10

ユネスコ日韓教職員  
オンライン対話プログラム……10

活動メモ……11

No. **414**  
2022年2月号

©フジテレビジョン



ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 発行

# Voice of Youth Empowerment 2021



## 幸福感とエンパシーでより良い未来へ

ACCU設立50周年を記念し、青少年の国際交流・グローバルリーダー育成事業の一環として10代中心の若者を対象とした次世代育成プログラムを株式会社フジテレビジョンと協働で実施しました。

8月の配信・参加型公開セミナー「SDGs Agora」では、「自分自身にとって幸せとは?」「社会にとって幸せとは?」を問ひかけ、自分自身の思考・行動の振り返り・掘り起こしをしました。

10月には、選考を通過した8チームがオンラインワークショップ「Speakers Workshop」を通してつながり、議論し、学びを深めました。

11月の最終イベント「Future Voices」では、同8チームが自身の思いやアクションをプレゼンテーション動画にまとめ世界に発信することで、自信と勇気、エネルギーを分かち合い、さらには社会の変容の一助となることを目指しました。

3つの活動を通して「自分自身による気づき(幸福感)」と「他者への思いやり(エンパシー)」をコアとしながら、より良い世界に向かっていく力を後押ししました。

ACCUの過去の実践やフレームワークも参照しながら、オールACCUで取り組んだプログラムです。

～地球の未来は、キミが変える～



### 8/22 SDGs Agora “Happiness”をキーワードに

“Voice of Youth Empowerment”が3回のイベントで構成されているのはACCUのこだわりですが、その第1弾を飾ったのがYouTubeで生配信したSDGs Agoraです。

これから目指していく社会に、自分はどのように関わってみたいか。また、異なる経験や考え方もつメンバーがどう協働して一つのプレゼンテーションで伝えるメッセージを作り上げていくか。応募者の皆さんへの問いかけを形にし、ACCUが過去のプログラムで行ってきた「Happy Workshop」をアレンジして今回のワークショップを行いました。

なお、動画は現在YouTubeで視聴可能です。ぜひ自分の幸せと社会との関わりについて考えるきっかけにいただけたらと思います。



©フジテレビジョン



©フジテレビジョン

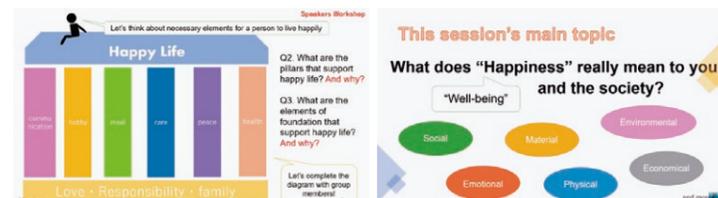
アーカイブ映像はこちら  
<https://www.voice-of-youth-empowerment.com/about.html>



### 10/10 Speakers Workshop 参加者同士の交流を深める

10月10日、選考を通過した8チームの初顔合わせとなる「Speakers Workshop」をオンラインで実施しました。SDGs Agoraでご紹介したワークを基に、今回も自分自身の幸せを見つめながら持続可能でHappyな世界の姿に想いを馳せる、対話型のワークを行いました。組み合わせを変えつつ2チームごとの小グループで何度か議論を重ねるうちに、徐々に緊張もほぐれ、互いの考えや活動について理解を深めることができました。

そのほか、グローバルに展開するメディア企業としての強みを活かし、効果的な英語プレゼンテーションのコツを伝授していただくフジテレビのセッションや、宮城県森の中からのACCU50周年記念ソングのリモートライブなど、盛りだくさんの内容となりました。



- DATA**
- 日本 参加チーム (学校名)
- Amakusa High School Science Club (熊本県立天草高等学校)
  - Gonzales (桜丘中学校)
  - Piece of peace (山陽学園大学高等部)
  - Steppers (市川学園市川中学校)
  - SUNNY (愛媛県立西条高等学校)
  - Takezono High School (茨城県立竹園高等学校)
- キリバス共和国 参加チーム (団体名)
- KiriCAN Rising (環境団体Kiribati Climate Action Network (KiriCAN))
- 東ティモール共和国 参加チーム (学校名)
- Lafahek Warrior (Saint Ignatius of Loyola College)

キリバス共和国  
太平洋に浮かぶ33の島々で構成され、島の東端に日付変更線があり、世界で一番早く一日を迎える国となっている。

東ティモール共和国  
インドネシアのティモール島東部にある国。サマータイムを実施していないため日本との時差がない。

出典：外務省ウェブサイト、JICAウェブサイト



11/21 Future Voice  
**未来への思いを世界へ!**

プログラムの最終イベントは「英語プレゼンテーション」。東京の会場と参加8チーム22名のユースが各地からオンラインでつながり、それぞれが考えるより良い未来へ向けての思い、アクション提言を英語で発表・議論しました。この模様をYouTubeで配信し、たくさんの方々にお届けしました。



**Amakusa High School Science Club**

**「アマモで海面上昇を食い止める!」**

5年間にわたって続けてきた地球温暖化に関する研究を発表しました。

**KiriCAN Rising**

**「私たちは地球温暖化と戦う!」**

気候変動が未来を奪うことを許さない。強い意志とアクションを共有しました。

**GONZALES**

**「マスクのリサイクルシステム」**

使用済み不織布マスクから仮設住宅や浄水器を作り、必要とする人へ届けるアイデアを発表しました。

**Lafahek Warrior**

**「質の高い教育をみんなに」**

教育にイノベーションをもたらす教育を通してより良い社会を目指すアイデアを共有しました。

**Piece of Peace**

**「Hiroshimaから平和の価値を」**

被爆地である広島から平和の大切さを伝えたいという熱い思いを共有しました。

**SUNNY**

**「ジェンダー平等を、身近なことから。あなたは一人じゃない!」**

学校での意識調査を交えて学校内にもあるジェンダー問題に声を上げました。

**Steppers**

**「貧困撲滅のために今日からできること」**

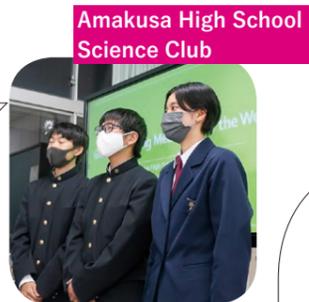
できることをみんなで積み重ねることによって世界を変えることができるという思いを力強く発表しました。

**Takezono High School**

**「みんなで議論を重ねてジェンダー問題の改善を」**

ジェンダー平等について地域の中学生と一緒に議論した経験を発信しました。

自分たちの研究を多くの人に知ってもらい、大人も子供も一緒になって行える具体的な地球温暖化対策を、地域そして世界に広めたい。これまではSDGs達成や地球規模課題を解決するための動きが少ないと感じていたが、すでに様々な活動や対策が行われていることを知り、「知ること」が大切だと思った。(KH)



**Amakusa High School Science Club**

たくさんの同世代の人が世界中で行動を起こしていることを知った。アイデアを発表するだけではなく、本当に行動を起こさなければならなかった。私たちのマスクのリサイクルシステムのアイデアを、まずは自分たちの町から実現させるため、今、市役所にかけている。(MH)



**GONZALES**



**Piece of Peace**

プログラム参加前はSDGsを何となく認識していただけだったが、参加後は具体的にどのような課題があり、自分自身にできることを考えるようになった。平和についてプレゼンテーションしたことで、広島に住んでいない人が平和をどのように認識しているのかを考えて話したり、プレゼンを作成したりするようになった。(AT)



**Steppers**

「Think Globally, Act locally」と言うように、共に学び活動することがより明るい未来へ向かう一番の近道だとわかった。(MY)

自分のことだけでなく、他の人や世界のことを考えるようになった。(TW)

本事業では私たちがインスパイアし、考えを共有する場が提供された。たくさんの素晴らしい考えに触れ、私たちは問題に対して黙っているわけにはいかないと思わせてくれた。今後もこのような場に多くの若者が参加し、声を上げるチャンスがあるといいと思う。(TMH)



**KiriCAN Rising**

このプログラムへの参加のために最後まで支えてくれた方々に感謝します。(GX)

**Lafahek Warrior**



**参加者の声**

多様な考えを持ち、意志を持っている方たちと交流できてよかった。自分にもまだまだできることがあると思えた。(NY)

自分が持っていた先入観から脱却して、他の人が幸せと感じることの基準も考えることができた。(NK)

**Takezono High School**



世界を少しでも変えられるよう、自分たちが活動しようと思える良い機会だった。(TI)

人の考えは何パターンもあって否定すべきではないが、無意味に肯定すべきでもないと思った。必要なのは議論を通して答えのない問いに答えを見つけていくことだと思った。(KN)

他の参加者の自分たちとは異なる課題発表を聞いて、課題の捉え方、新たな視点、視野が広がった。(HM)

本事業を共催

株式会社フジテレビジョン 国際局 国際渉外担当 中本尚志



**教育とエンタメの融合  
 ~エンパワーとエンパシー~**

テレビは何事にも演出を施す。伝える事にわかり易さを求めるのも事実。当イベントで教育の専門家(ACCU)とエンタメの専門家(フジ)が「越境」してコンテンツを作った。異業種間で理解するにはエンパシーが何より重要(田村理事長も8月のイベントで言及)。若者をエンパワーすると同時に、大人同士が共感し合う世界観を演出できたとすれば幸甚である。

50周年記念ソング作曲・歌唱

エコロジカル・シンガーソングライター 海藤節生



SDGsという国際目標を自分事とし、課題解決に向け自然にアジアの国々とパートナーシップを組む、そんなユース達がいきました。

\*50周年記念ソングは下記URL・二次元コードからご視聴可能です。

<https://www.accu.or.jp/oh-accu/>



本事業への助言・キリバスとの調整等ご協力

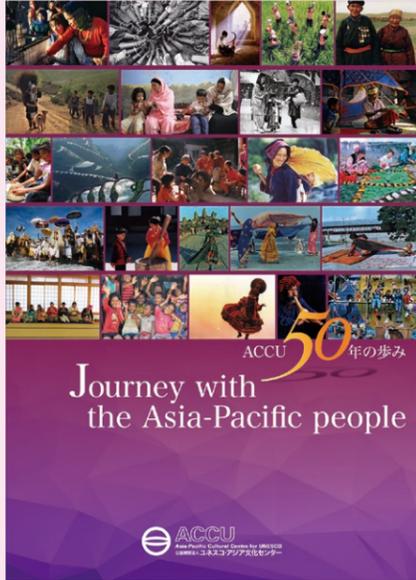
一般社団法人日本キリバス協会 代表理事 ケンタロ・オノ



キリバスの若者の声を届け、また参加者の皆さんと交流する大変貴重な機会となりました。どうもありがとうございました。

「50周年の節目の年に、未来を見つめるプログラムを作りたい!」そんな思いで未来の主役である若者たちを中心としたプログラムがスタートしました。先の見えない世界にあって、より良い未来の世界の姿を決めるのは、今この地球に暮らす自分たちの思いと行動です。そんな風に前を向く人々のエネルギーがたくさんの方に届き、このプログラムに関わってくださった皆様に元気や気づきをもたらすことができたら幸いです。最後になりますが、ご協力いただいたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

## ACCU50年の“旅”



ACCU設立50周年記念誌『Journey with the Asia-Pacific people ~ ACCU50年の歩み～』が完成しました。本誌では、主に設立40周年から現在までに焦点を当て、ACCUの活動を分かりやすい言葉で伝えることを心がけるとともに、過去の事業等で撮影・制作されたアジア太平洋諸国・地域の写真やイラストをふんだんに使用し、親しみやすく、何度も見返していただけるような構成を目指しました。

制作は約2年前に始まりました。その間には、膨大な数の関係資料の収集、現役職員やかつて職員であった方への取材、代表理事による対談の実施、主要事業や制作物等の情報整理etc…実に多くの工程がありました。コロナ禍という予想外の困難にも見舞われましたが、例えば表紙やタイトルなど、各職員からアイデアを募りたいときにはオンラインツールを使うなど、工夫をこらして進めてきました。多くの方のご支援、ご協力により、50年間の“Journey: 旅”が垣間見える一冊ができました。改めて、心より感謝申し上げます。



## 持続可能な社会を目指す活動の力に

ACCUは1971年にユネスコの打診を受けてアジア太平洋地域の教育と文化の相互交流を促進する中核的センターとして設立され、以来、ユネスコ等国際機関・政府機関・産業界・地域社会と協力し持続可能な社会の実現に貢献する事業を進めてきました。

2021年には「50周年記念基金」を開設し、50周年記念事業(p.2-5)の実施や、ユネスコスクール、模擬国連事業、識字学習支援、教職員及び青少年の国際交流、学校や地域等でのESD・SDGs推進等の各事業にて大切に活用させていただいております。コロナ禍で教育格差が広がり、学ぶ場が失われている現在、誰もが自らの意思で参加できる学びの場を提供することは大切です。今後も様々なアプローチで活動を続けるACCUをぜひ応援してください！

詳細は、右記「50周年記念基金」のページをご確認ください。https://www.accu.or.jp/support/50th-anniversary/

\* ACCUへのご寄付は税制上の優遇措置(寄附金控除の適用)が受けられます。



## 「50周年記念基金」

募集期間 2023年3月31日まで

ご寄付額 個人2万円/1口 法人20万円/1口

ご寄付の御礼 「50周年記念誌」の謹呈

## お振込先

- ①三菱UFJ銀行(支店名 虎ノ門)  
口座番号：(普) 4125516
- ②三井住友銀行(支店名 東京公務部)  
口座番号：(普) 3021322
- 口座名義(①②共通、すべて半角)：  
コウキザ イダ ノホウジ ヌネスコアジア パンセンター

ユネスコ加盟70周年  
持続可能な未来の構築へつながる「Empathy」

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は、日本が戦後最初に加盟した国連機関です。加盟から70周年を迎えた2021年、文部科学省をはじめACCUでもユネスコに関連する動きがありましたので、一部をご紹介します。

## 記念メッセージを発信！

ユネスコ加盟70周年という節目の年を記念し、文部科学省ではロゴマークを作成するとともに、記念企画を実施しました。その中で、加盟日である7月2日、日本ユネスコ国内委員会の会長、日本ユネスコ協会連盟の理事長と共にACCUの田村哲夫理事長が、記念メッセージをYouTubeのライブ放送で発信しました。放送内では日本のユネスコ加盟当時の映像も配信され、歴史的瞬間を目の当たりにしました。田村理事長のメッセージは下記よりご覧いただけます。  
https://www.accu.or.jp/news/20210714/

## 次世代ユネスコ国内委員会

ユース世代の声を国内外におけるユネスコ活動に反映させることを目的として「次世代ユネスコ国内委員会」が発足しました。委員会には高校生から社会人までの多様なバックグラウンドを持つメンバー20名が参加しており、ユース世代によるユネスコ活動をより活発化させるための提言の作成や、世界のユースと議論を行うためのイベントの企画・実施を行います。また本委員会にはACCUの職員もメンバーの一人として活動に参加しています。

## ユネスコスクール加盟に向けたキャンディデート校の取組

現在、日本国内では約1,100校の就学前教育施設、小学校、中学校、高等学校及び教員養成系大学等がユネスコスクールに加盟し、文部科学省の委託によりACCUがユネスコスクール事務局の運営を担っています。2021年度、日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクール登録申請における新たな仕組みを導入しました。ユネスコへの申請後、加盟登録に至るまでの期間が長期化している現状を踏まえ、国内審査を終えユネスコ本部に申請中(または行う)段階にある学校を、「ユネスコスクール・キャンディデート」として位置づけるものです。該当校は国内のユネスコスクールのネットワークへの加入や活動が可能となります。

今回、キャンディデートとして活動する学校へインタビューを行いました。本項では長野県上田西高校のご回答を紹介いたします。

今号に掲載できなかった学校のインタビューについては、ACCUのウェブサイトにて公開していますので、右記のURLまたは二次元コードより是非ご覧ください。

## 1 ユネスコスクール加盟を目指したきっかけは？

生徒に「自主性を確立」させること、「社会性を養う」ことを学校理念としています。ESDの実践に必要な2つの観点と重なり、ESDの実践を通してより明確に、より意識的に学校づくりを行うためです。

## 2 チャレンジ期間中、加盟に向けてどのようなことを意識し、何に力を入れてきましたか？

次の4点について力を入れました。①国際交流：姉妹校との長期留学・短期留学を実施し、その成果を全校集会でプレゼン②海外修学旅行：台湾・シンガポールを先とし「平和学習・異文化理解」を目標に実施③地域貢献活動：学校周辺の通学路清掃、本校生利用駅南口広場の地域住民との交流活動を実施④ESDに関わる学習：夏休み最終週を探究週間とし全校学習発表会を実施

## 3 加盟申請後、学校や教員、児童・生徒に変化はありましたか？

https://www.accu.or.jp/unesco-school\_candidate/



地域住民との交流「緑のフェスティバル」の様子

校内に「ユネスコスクール推進委員会」を組織し、加盟後の動きについて検討を重ねました。校内教員研修会では外部講師を招いて、ユネスコスクール・ESD・SDGs等を意識した研修を実施し、また多くの教員が県私学研修会の講演会にも参加し意識の向上も努めました。授業、生徒会活動、修学旅行等各行事でも前記テーマを意識した取り組みが増えてきています。



地域に根差した持続可能な開発のための教育 (ESD) アジア太平洋交流プログラム

# アジア6か国の地域に根差したESD推進

教育協力部 永里好絵

ユネスコの「地域に根差したESD推進プロジェクト」における経験を共有、議論し、参加国での今後のアクションを探ることを目的に、神奈川県平塚市で2日間にわたりワークショップを開催しました。中国、インド、日本、ラオス、モンゴルとフィリピンの事例が紹介され、ESD実践者や専門家を含む約50名の参加者が各々の経験と意見を交わしました。

本プログラムでは、ユネスコバンコク事務所が開発した地域ESD推進枠組み(Reflect-Share-Act)に基づくディスカッションや、コロナ禍における地域の学びや課題という共通の問いの下、事例発表や意見交換を行いました。参加者からは、コロナ禍においても学びを継続することの大切さや、いかなる学びも地域の文脈において生じるため、世代間の対話や複数関係者の参加による伝統的知識の共有を通して、それぞれのニーズを理解することが重要となる点が強調されました。また、日本国内で地域づくりに携わる若者も参加し、自らの経験の共有を通して学びがいかにか学校の内だけでなく外においても生まれるかということ、そして若者が地域に対して意見することで関わるだけでなく、世代を超えて自らの経験や知識を共有する主体であることを語りました。

本プログラムは、国際的な枠組みに示されるような地域におけるESD推進の機会となり、参加者からは今後も連携して活動していきたいという声が多く寄せられました。このように、各国の取組をつなぐ輪をつくるこ



とができたことは、今後のESD協働へ向けた国際的ネットワーク構築の一歩となりました。プログラム詳細については、当日の発表資料等を含めた報告書としてまとめ、ACCUのウェブサイトに掲載しておりますので、是非下記よりご覧ください。

<https://www.accu.or.jp/news/20220106-2/>

## 各国からの発表資料

<p>ESD推進の学び</p>	<p>Promoting Community-based Education for Sustainable Development</p>
<p>日本「ESD推進の学び」</p>	<p>インド「持続可能な開発のための地域に根差した教育の推進」</p>
<p>フィリピン「マングローブの保護と保全における漁民の土着の知識の保存」</p>	<p>モンゴル「地域に根差したESD事業」</p>



**DATA**  
 実施期間：2021年8月10日(火)～11日(水)  
 参加者：中国、インド、日本、ラオス、モンゴル、フィリピン、オーストラリア、ブラジル、バングラデシュのESD実践者や専門家、ユネスコ職員 計53名  
 開催場所：神奈川県平塚市崇善公民館、オンライン

アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム「BRIDGE Across Asia Conference」

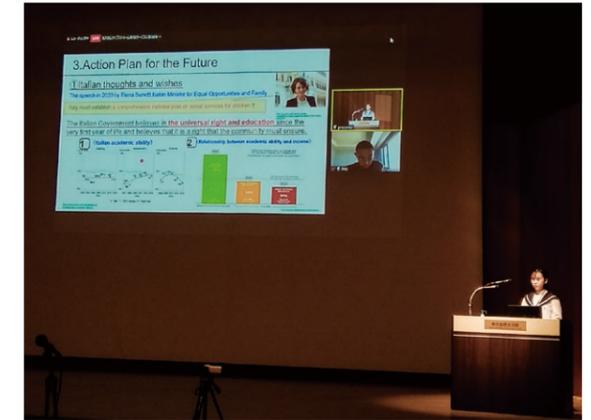
# 高校生が得た気づきとつながり

国際教育交流部 杉戸卓磨

アジア太平洋青少年相互理解推進プログラムとして「BRIDGE Across Asia Conference (BAAC)」が約3か月にわたって開催されました。本プログラムには日本、モンゴル、韓国、タイ、インドの5か国から高校生が参加し、主にオンライン上において積極的な交流を深め、今後につながる新しい出会いや学びを得ることができました。

本プログラムは、未来を担う高校生が社会課題に対する意識を高め、国内外の様々な参加者との交流を通じて多様性への尊敬を持ち、社会に主体的に貢献できる人材を育成することを狙いとしていました。日本とアジア4か国からの参加者がペアを組み、担当する国を代表する大使として「子どもの貧困」をテーマに、共に担当国の情報収集・分析・政策策定を実施しました。その後の政策発表会においてリサーチ内容についての発表を行い、模擬国連大会では各国の政策について議論を交わしました。本プログラムにおいては普段から模擬国連活動を活発に行う神戸市外国語大学の学生が、大会の運営からリサーチ・プレゼンテーション作成へのアドバイス等まで全面的に協力し、参加者にとっては非常に心強いサポートとなりました。

プログラムを通じて参加者は多くの気づきとつながりを得ました。例えば他者に対してめげずに思いを伝えようとする姿勢の重要性を知ったり、自己成長を感じて将来の新しい夢を持つ参加者もいました。また、交流を通じてペア相手の国に対する印象が大きく変わり、深い対



話を通じた他者理解の重要性を感じたという声もありました。さらにはいつか互いの国を訪れることを願うなど、今後も続く参加者同士の貴重なつながりも築かれました。本プログラムは3か月という限られた期間でしたが、今回の経験をもって様々な学びを得た参加者が、地域社会や国際社会において将来活躍することが期待されます。

## 参加者の声 (アンケートより)

<p>プログラムが終わった現在でも他の参加者と連絡を取っている。また何かを一緒にチャレンジしたい。(インド)</p>	<p>私たちは両国の架け橋(Bridge)となって様々な挑戦をすることができた。素晴らしい関係を築くことができたと思う。(日本)</p>
<p>チームワークなどの将来必要となるスキルについて学ぶことができた。(モンゴル)</p>	<p>様々なバックグラウンドや文化を持つ多様な人々と関係を築くことができたという点でBAACは非常に有益なプログラムだった。(日本)</p>
<p>参加者たちとまた会って、お互いの夢や目標について語り合いたい。(タイ)</p>	<p>BAACを通じてアジアの様々な国の人々との交流を行うことができた。結果として国を超えた友情を築くことができたと思う。(韓国)</p>

**DATA**  
 実施期間：2021年8月5日(木)、10月10日(日)、17日(日)  
 参加者：モンゴル、韓国、タイ、インド、日本から計32名  
 開催場所：オンライン

タイ政府日本教職員招へいプログラム (タイ派遣)

# オンラインプログラムの楽しみ方

国際教育交流部 高松彩乃

タイ政府日本教職員招へいプログラム(タイ派遣)が、2年ぶりにオンラインで開催されました。今回のプログラムは、主催機関のタイ教育省にタイのチュラロンコン大学が協力する形で実施され、プログラムは学校現場におけるコロナ対応及びオンライン学習の好事例紹介と、日タイ教職員の意見交換で構成されました。意見交換の部分では、オンライン授業を含む自宅学習を進めていくにあたっての学校から保護者への発信を題材に、小グループでアイデアをまとめて共有しました。各チームに賞

も与えられました。タイからはオンライン授業をさかんに行っている学校の教員が多く参加し、様々なアプリケーションを駆使する姿が印象的でしたが、最も新鮮だったのは、アバターへのデジタル参加証明書授与と、プログラム参加記念に相手の国の伝統衣装を着た自分のアバターの画像が配布された点です。オンラインプログラムの柔軟かつ新しい楽しみ方を学ぶプログラムとなりました。



**DATA**  
 実施期間：2021年9月13日(月)～17日(金)  
 参加者：タイ教職員10名、日本教職員5名  
 開催場所：オンライン

ユネスコ日韓教職員オンライン対話プログラム

# オンライン交流で得たもの

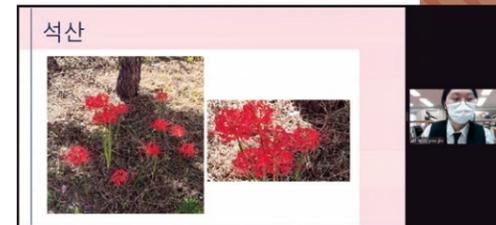
国際教育交流部 杉戸卓磨

7～10月にかけて日本と韓国の教職員約50名が参加する「ユネスコ日韓教職員オンライン対話プログラム」が開催されました。本プログラムでは、日韓の教職員で構成される8つのグループにおいて、それぞれが割り当てられたSDGsの4つのGoalのうちの1つをテーマにした授業案作りを約3か月にわたってオンライン上でを行い、最終的に参加者の所属校で実際に授業を行いました。具体的にはGoal 16「平和と公正をすべての人に」を担当したチームは、参加者が勤務する互いの中学校にお

いて難民をテーマにして人権を考える授業を行い、Goal 15「陸の豊かさを守ろう」のチームは、学校・地域・国における生物多様性の事例を互いに調べて発表するという授業を実践しました。参加者からは「今回の交流をきっかけに生徒・教員共にもっと交流したい・知りたいという気持ちに火が付いた」「今後は韓国も含めた色々な国々となつなっていきたい」など今後の交流への前向きな想いが聞かれました。



韓国派遣 授業案作成のための議論の様子



韓国派遣 交流授業の様子

**DATA**  
 実施期間：2021年7月17日(土)～10月16日(土)  
 参加者：韓国教職員25名、日本教職員20名  
 開催場所：オンライン

ASPUUnivNet評価検討会議・第1回連絡会議

①7/6(火)②ACCU③オンライン④53名

ユネスコ日韓教職員オンライン対話プログラム

①7/17(土)～10/16(土)②韓国ユネスコ国内委員会、ACCU③オンライン④日本教職員20名、韓国教職員25名

第1回ユネスコスクールオンライン意見交換会「ほかの学校はどうしてる? GIGAスクール構想下でのESD」

①7/27(火)②ACCU③オンライン④19名

BRIDGE Across Asia Conference

①8/5(木)、10/10(日)、17(日)②ACCU③オンライン④32名(モンゴル、韓国、タイ、インド、日本)

「地域に根差した持続可能な開発のための教育(ESD) アジア・太平洋交流プログラム」

①8/10(火)～11(水)②ACCU、東海大学学生アチーブメントセンター、神奈川県平塚市教育委員会、ユネスコ③神奈川県平塚市、オンライン④約50名(日本、中国、インド、ラオス、モンゴル、フィリピン、オーストラリア、ブラジル)

令和3(2021)年度文部科学省ユネスコ活動費補助金「学校教員による持続可能な未来の担い手を育むための評価手法開発事業」ユネスコ加盟70周年記念教育評価事業合同シンポジウム2021

①8/19(木)②ACCU③オンライン④55名

Voice of Youth Empowerment 2021～地球の未来は、キミが変わる～

①8/22(日)、10/10(日)、11/21(日)②ACCU、フジテレビジョン③ACCU、フジテレビジョン、オンライン④8/22:6名・視聴5883回(12/8時点)、10/10・11/21:各26名(東ティモール、キリバス、日本)・11/21視聴52,056回(2022/1/5時点)

第2回ユネスコスクールオンライン意見交換会「明日の授業から使える! 小中高対応、ESDのヒント集!」

①8/24(火)②ACCU③オンライン④19名

文化遺産の保護に資する集団研修

①9/1(水)～30(木)②文化庁、ACCU奈良、国立文化財機構東京文化財研究所・奈良文化財研究所③オンライン④27名(11か国)

タイ政府日本教職員招へいプログラム

①9/13(月)～17(金)②タイ教育省、チュラロンコン大学、文部科学省、ACCU③オンライン④タイ教職員10名、日本教職員5名

第3回ユネスコスクールオンライン意見交換会「ユネスコスクールと「平和」—国際平和デーを記念して—」

①9/21(火)②ACCU③オンライン④19名

世界遺産教室(奈良県立法隆寺国際高校)

①9/28(火)②奈良県、ACCU奈良③奈良県立法隆

寺国際高校④36名(歴史文化科3年生)

令和3(2021)年度文部科学省ユネスコ活動費補助金「学校教員による持続可能な未来の担い手を育むための評価手法開発事業」中間報告会

①10/3(日)②ACCU③オンライン④約20名

文化遺産の保護に資する個別テーマ研修

①10/8(金)～21(木)②文化庁、ACCU奈良、国立文化財機構奈良文化財研究所③オンライン④8名(インドネシア)、3名(日本人講師)

第4回ユネスコスクールオンライン意見交換会「気候変動問題をはじめとした地球環境問題に関する教育を進めるために」

①10/19(火)②ACCU③オンライン④22名

世界遺産教室(奈良県立高取国際高校)

①11/9(火)②奈良県、ACCU奈良③奈良県立高取国際高校④5名(国際コミュニケーション科2年生)

文化遺産ワークショップ

①11/10(水)～12(金)②文化庁、ACCU奈良、ミャンマー連邦共和国宗教文化省考古・国立博物館③オンライン、奈良文化財研究所④15名(ミャンマー)、1名(日本人講師)

世界遺産教室(奈良県立五條高校)

①11/12(金)②奈良県、ACCU奈良③奈良県立五條高校④20名(普通科(学びの森コース)1年生)

第15回全日本高校模擬国連大会

①11/13(土)～14(日)②グローバルクラスルーム日本協会③淡路夢舞台国際会議場④60チーム120名

第13回ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会 第4研究協議会

①11/27(土)②ACCU③オンライン④約90名

ASPUUnivNet第2回連絡会議

①12/9(木)②ACCU③オンライン④約50名

文化遺産に関わる国際会議等

①12/10(金)～15(水)②文化庁、ACCU奈良、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター③オンライン、奈良コンベンションセンター④登壇者10名、オブザーバー105名(15か国)

インド教職員招へいプログラム

①12/12(日)～19(日)②文部科学省、ACCU、インド教育省、インド環境教育センター③オンライン④インド教職員15名、日本教職員15名

「持続可能な地域づくりを推進する学びの共同体:モジュール企画会合」

①12/14(火)～15(水)②ACCU③岡山県倉敷市④11～16名

JICA課題別研修「ノンフォーマル教育の推進」オリエンテーション

①12/21(火)②ACCU、JICA③オンライン④約15名(日本、カンボジア、スリランカ、パキスタン)

第5回ユネスコスクールオンライン意見交換会「ユネスコスクールの新たな展開について」

①12/21(火)②ACCU③オンライン④約30名

ACCU INFORMATION

## 昨年度秋～今年度夏に入職の新スタッフ!

様々なご経験をなさってきた職員の皆さまから日々学ばせていただいております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

総務部として日々貢献できるよう自身のスキルをアップさせたいと思います。  
 \*昨今のマスク生活にも慣れ、花粉の時期の憂鬱さもなく過ごせそうです。



学生時にボランティアとして関わり、いつかACCUで働きたいと思っていました。教育を通じた持続可能な社会の実現に貢献できるよう頑張ります。

2021年8月に入職いたしました。ACCUの事業や仕組みに理解を深めつつ、より良い職場環境づくりに努めてまいります。